



深山の桜

平成31年1月
創刊号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜本は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜本の魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport
発行者 久保成明
〒818-0004
筑紫野市大字吉木2459-1

深山の桜

「深山の桜」私が、最も大切にしている言葉の一つです。

十年ほど前、障がい者の就労支援事業に携わるきっかけを下さった、某スーパリーのオーナーとの出会いが始まりです。

そのスーパリーは、「徳活経営」といって、経営者が徳を身につけ、その徳をもって会社を活めることを目指していました。

私は、その子会社の取締役として配属され、上司はいません。実質現場の責任者となりました。

その頃の私は、業績を上げて、会社を軌道に乗せることだけを考え、自分の信念と計画に基づいて運営にあたっていました。

開拓当時は、計画通りに事が運ばずに強い危機感と苛立ちを覚えたことを、今でも鮮明に覚えています。

そんな時、オーナーから、「人間学を学んだ方がいい」「業績ばかりを遡うのではなく、自分自身が成長することの方が何倍も大切だ」と言われました。また、「自分が成長した分だけしか、会社（社員）は成長しない。本を読め」とも言われました。

その時は、「何を悠長なこと言っているのか、今困っているのは、何かを知ることではなく、収入を担保できる利用者を獲得することじゃないか」とオーナーに話した事もありました。
あまりにも執拗に進めてくれるので、根負けした私は、一冊の本を購読し始めます。

その月刊誌には、有名な名同わず、たくさんの方々の苦勞を経て勝ち上がった方のインタビュー記事がまとめられており、読書の苦勞を私でしたが、意外と素直に受け入れることができました。
様々な方の体験から考えさせられたことは、「魅力的なものには、必ず人が集まる」ということです。そのどれをとっても最初から成功はあり得ないということ、小さな成功で自分自身を見失わない、常に謙虚な心が必要だということでした。

東京出張の際、事前に出版社に予約して、編集長とお会いした時に、心に残るお話しを頂戴し、それが今回、私の月刊誌「深山の桜」となるのです。

以降引用

深山の桜を知っていますか？「深山の桜」は、土手や公園に咲いている桜ではありません。深く険しい山奥に咲く桜です。

その桜本は、最初小さく、誰にも気づかれることなく、ひっそりと咲いています。何年か、あるいは何十年かが過ぎたころ、人々は、少しずつ、その桜本に気づくようになります。

すると、その桜を一目見ようと、そこに人が集まる。はじめは、そこに道などありません。年を遡うごとに、だんだんと細い道となり、評判が評判を呼び、多くの人が押しかけて、細い道はだんだん太くなる。道の周りには、お店ができ、ひとが住むようになる。深山の桜は圧倒的な魅力があるにもかかわらず、決してそれをひけらかさない。自分からアピールすることもない。ただ、淡々と咲いて散るだけ。

小手先の計画と行動で、本質的な部分は何も変わることなく、変わろうともしなかつた当時の自分を猛省する日々が続いたことは言うまでもありません。この先たくさんの方々の困難や失敗があると思いますが、人々がこんなへんびな場所でありながらも、ここに来たいと思ってもらえるような支援を皆さんと共に育んでいけたら、私はとても幸せです。



深山の桜

平成31年2月
第2号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の
魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、
だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport
発行者 久保成明
〒818-0004
筑紫野市大字吉木2459-1

心を一つに

平成29年6月1日、筑紫野市吉木2459-1番地に、梅の里別館(株式会社ホワイトエイジ)と併設する形でオ
ーブンした、夢つむぎグラブハート(夢つむぎ株式会社)でした。様々な困難を乗り越え、平成31年1月より、
久保由紀子が代表を務めさせてもらって、グラブハート(株式会社GloveSupport)が誕生しました。
先ほど、様々な困難と申しましたが、私は社会人になって20余年になりますが、心の底から人を憎み、これほ
ど情緒が不安定になったことは、一度もありませんでした。

話しが二転三転し、その都度、社員、利用者、取引先に至るまで、修正と謝罪を繰り返す毎日。決まりかけ
たことが、積み木がくずれるように、上層部の判断で覆る。
銀行の融資も、審査が長引くなど、胃の内側と外側からえぐられるような、失意のどん底を体験しました。

あくる日も、そのまたあくる日も、私は妻を励まし、妻は私を鼓舞し、苦樂は一対と、互いに思いやった結果、
幸運にも、心が一つになり、満ちたりた、心静かな状態を味わうことができました。

しかし本質的に、私たちが腐らず、王道を進めたのは、人生をかけて、私についてきてくれた社員たちと、その
ご家族、そして何より、こういう状況で不安を抱えながらも、私たちの姿を見て心配し、応援してくれた利
用者のみなさまのお陰であることは、言うまでもなく、みなさまと心を一つにできたことが、私の一生の財産と
なり、胸に刻まれました。

私が尊敬する素心学塾 塾長の講話に、「幸福な人生とは何か」という投げかけがありました。
幸福な人生をおくるためには、5つの条件があると云います。

- 1、身体が健康であること。
 - 2、経済的に困ることがない。
 - 3、人間関係が良好である。
 - 4、精神的に安定している。
 - 5、生きがいを持っている。
- せつかく生まれてきたのだから、誰もが「幸せになりたい。」と望むのは当然です。
幸福になるということは、金持ちになることでも、有名になることでも、権力を持つことでもありません。
自分だけの欲求を満たそうとするのではなく、身の回りの方々の幸福と社会、自然環境との調和を図ること
で、はじめて、自分自身の人生の幸福も実現できるといふことでした。

この講話を聴いて、悲観的な考えや愚痴・不平不満よりも、「あの人が喜んでくれたらうれしいな」とか「きっと
うまくいくから大丈夫」と人生を肯定して生きていくことのほうが、いかに大切かということに、あらためて気づ
かされました。

私たちと共に、日々仕事してくれている仲間たちは、福祉の経験はほとんどありませんが、人を喜ばす天才だ
らけだと感じます。そのような人たちに囲まれて仕事ができる喜びを、ひしひしと感じながら、心を一つに、
また新しい取り組みを考える事ができる私は、とても幸せです。

グラブハート所長 久保成明



深山の桜

平成31年3月
第3号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の魅力に少しずつ気づくようになる。はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、だんだん細い道となる。その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport
発行者 久保成明
〒818-0004
筑紫野市大字吉木2459-1

伝えることの難しさを知る

人は成長する過程において、身近なものや、生活環境を他者と比較する習性があるようです。私も、何かにつけて、あの子は〇〇を買ってもらっているのに、何でうちには買ってもらえないのかとせがんで腹を立て、父や母を困らせることが度々ありました。当時の両親は、そんなわからずやの私を、厳しくしかることもなく、私が納得できる答えを探し出しては、提案してくれていたように思います。

本当に我慢強い両親などと、自分に子供ができて、躰を行うようになったことで気づくことができました。子どもの躰とは全く異なりますが、我々の事業は障害者の就労支援ということもあり、利用者さんの障害特性は様々で、ルールを作っても、しっかりと守れる方、ルールそのものを理解できない方、ルールの説明は理解できるが行動が伴わない方、ルールや形式が嫌いで従えない方など個性が豊かです。伝えることの難しさを痛切に感じています。

教えることの原点は教育ですが、伝えることの原点とは何かと聞かれると明確な答えが出てきません。私なりに伝えることの原点とは、話し方や言い回しがうまいという付属的な要素もあります。

しかし、本質的要素として、「自分の思いを受け取ってほしい」という熱意と、「どうすればうまく伝わるか、自己に欠けている所はなかつたか」という謙虚さが必要だと考えます。

そう考えると、自己の行動や発言が傲慢で、利己的であれば、どれだけ熱意をもって伝えたとしても、伝わりにくくなるものであることは明確です。

私は、次のことを意識するように心がけています。

(謙虚さがなくなる兆候十四項目)

- ① 時間に遅れだす。
 - ② 約束を自分の方から破りだす。
 - ③ 挨拶が雑になりだす。
 - ④ 他人の批判や会社の批判をしだす。
 - ⑤ すぐに怒りだす。(寛容さがなくなる。)
 - ⑥ 他人の話しを上調子で聞きだす。
 - ⑦ 仕事に自信が出てきて、勉強しなくなる。
 - ⑧ ものごとの対応が緩慢になってくる。
 - ⑨ 理論派になりだす。(屁理屈を言う)
 - ⑩ 打算的になりだす。(損得勘定がしみつく)
 - ⑪ 自分が偉く思えて、他人が馬鹿に見えてくる。
 - ⑫ 目下の人に対してぞんざいになる。
 - ⑬ 言い訳が多くなる。
 - ⑭ 「ありがとうございます。」という言葉が少なくなる。(感謝がなくなる)
- 謙虚さがなくなる兆候を意識して、相手に物事を伝えたとき、きくと相手は、大切に扱われているという気持ちになつてくれると思います。どんなに仕事ができ、どんなに立場が上位であっても、人としての礼儀や道徳心を欠く行動を繰り返していると、きくとそれが染みつき、全て自分に返ってくると思えます。
- 知識・技術は高いにこしたことはないですが、私はもつと大切なことを温め、育んでいきたいし、そこに皆さんと一緒に歩いていけたら、私はとても幸せです。



深山の桜

平成31年4月
第4号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の
魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、
だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport
発行者 久保成明
〒818-0004
筑紫野市大字吉木2459-1

いつも心の中を感謝の気持ちで満たす

人は、知らず知らずのうちに心に垢が溜まって、悪い癖がついてしまいます。

先月号でお伝えした、謙虚さが無くなる兆候こそが、それに気づくチャンスと言えます。

私は、20年ほど前、介護福祉士として、老人保健施設に入職しました。食事や入浴、排せつの介助など、介護が必要な高齢者のお世話をしていました。

17時まで勤務して、そこから、2時間、座学と介護技術向上の実技演習を繰り返しては、より質の高いケアとは何かを、同期の仲間と追求していた日々を思い出します。そのことが、私の大きな支柱となっていることは言うまでもありません。

3年、5年と経験が積み重なっていくうちに、ご利用者の気持ちに寄り添って、ものごとを考え、行動していたはずが、職員の介護疲れの抑止や、占座率(ベット稼働率)などに囚われている自分がいました。食事介助を効率よくするための道具を購入したり、コストダウンが目的で、品質が悪いおむつと知りながら使用したりで、到底、入職したときの初々しい気持ちと、質の向上を熱心に取り組んだ時とは、別人になつていたように思います。

当時の私は、心の中に、感謝の気持ちを持つどころか、傲慢な気持ちで充滿し「自分がフロアー長だから、業務が円滑に回っている。」と、利己的な人格になつていたようです。

あるとき、一人の男性ご利用者が、老衰でお亡くなりになりました。当時94歳で、娘さんがお世話をされていました。島国の出身で若い時は、漁師で、白身さかなを加工して、かまぼこを作っていたそうです。担当ということもあって、できる限りのケアを提供していただけに、計報を知ったときは、涙が止まらず、娘さんと抱き合っ泣いたのを思い出します。その時に、娘さんから聞いた言葉で、私は目が覚めました。

「生前、まさ(父親)が最後に言った言葉がさあ、久保ちゃんには、ちゃんとしとけだったのよ。私にはお礼の一言も言わないで、一人で逝つてしもうて...涙。」

その話を聞いた時全身の力が抜けて、自己の当時の行動が悔やまれ、恥ずかしく思いました。まささんは、死をもつて私に次の事を教えてくれたと考えます。どんな時でも、人にやさしく、感謝の気持ちを持つこと。いつも明るくしていれば、心の中が満たされること。

その日から私は、いつも心の中を、感謝の気持ちで満たす努力をはじめました。そして今、ご拝読いただく方々に、少しでもこの気持ちが伝わったらいなあと感じています。高齢者福祉からは卒業しましたが、福祉事業に携わり続け、あの時の気持ちを思い出す事ができた私は、とても幸せです。

クラブパート所長 久保成明

深山の桜



令和元年5月
第5号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の魅力に少しずつ気づくようになる。はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、だんだん細い道となる。その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport
発行者 久保成明
〒818-0004
筑紫野市大字吉木2459-1

悪い癖と善い癖に気付くこと

人には、「悪くて七癖、あつて四十八癖」ということわざがあります。

一見して癖がなさそうな人でも七つ、癖が多そうに見える人には、四十八もの癖があるという意味だそう。とかく、他人の癖は、敏感に目につきやすく、自分の癖には、案外気が付かないものです。

自分で言うのもなんですが、私はつくづく、癖の多い人間だなあと感じます。

自分で認識している悪い癖はたくさんありますが、三つ挙げるとするならば……。

①人とお話をするときに、腕組みをする癖。
②緊張すると、髪の毛の襟足部分を触る癖。

③手に何かをもつて人と接していると、無意識に折り曲げたり、ねじったりする癖。

3つとも、行儀に係ることですので、特に意識をして、人前で悪い癖が出ないように心がけています。逆に、善い癖をあえて挙げるならば……。

①人に対して、「すみません」「ごめんね」「ありがとう」がすぐに出る癖です。他にはありません。

これは、父母もそうですが、祖父母から厳しく躾けられました。ただ、時に使い方を間違つて、相手を不愉快にさせることもあるようです。社会人になってから、それを学びました。

日本語はつくづく難しいなあと感じています。

さて、今回は、「気付く」と言うことを考えたいと思います。

私が学んでいた素心学塾では、塾生に対して「自己を知り、自己を正す。」という言葉があります。自己の欠けている所に気付くための戒めとして、素心の実践(日常の心がけ21項目)を繰り返す、行うように習いました。一部ご紹介すると、①笑顔で挨拶。⑤「ハイ」という明るい返事。⑩物は粗末にせず大切に扱う。⑮愚痴や悪口は控える。そして最後の項目は、「一日の終わりは静かに反省」です。頭では理解できている事でも、毎日となるとなかなかできないものです。流れるような慌ただしい生活を送っている皆様にとつて、この21項目すべてを自然体で行うことは困難と思われませんが、今日はこれとこれは意識してみようと思ひ、挑戦することが、自己の欠けている所に気付くきっかけとなるのではないかと考えます。

令和元年の年に、今までの習慣や悪い癖に気付く練習をしてみても面白いのではないでしようか。自己を知ること、自己を正すきっかけとなることを期待します。

胸を張つて、「今日一日、精いっぱい楽しんで。」と思えるような生き方ができる人と一緒に、人生を共にできることが僕の夢です。この度のテーマで、「自分ほもとより、周囲の人が小さな喜びを感じられるような気付きの目を持つこと」で意外と重要なのではないかな？」と思つてくださつたのなら、私はとても幸せです。

深山の桜

令和元年6月
第6号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の
魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、
だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport
発行者 久保成明
〒818-0004
筑紫野市大字吉木2459-1

物事には必ず背景があるという話

わたしは常々考えます。

「自分が今こうして生活できるのは誰のお陰か」ということ。

人々を喜ばす天才、ウオルト・ディズニーは次のような素晴らしい言葉を残しています。

「成功は、自分ひとりの努力によるものだと主張することは浅はかで傲慢なことだ。どんな優れた業績も、多くの人々の手と心と頭に助けってもらって、初めて可能になるのだから。」。全く同感です。

わたしは幸運にも、父と母から元氣な体を授けてもらい、天真爛漫に育ててもらいました。

兄ともよくケンカをしましたし、人一倍、優しくしてもらいました。少年期はルールの範囲内での自由というものに違和感を持ち、人がすることの反対ばかりしては、周囲の方々に心配と迷惑をかけた時期もありました。

たくさん仲間が、自分の周りにいてくれたお陰で、充実した生活を送ることができて、本当に幸せを感じずにいられなくなります。

さて、今回は「物事には必ず、背景がある」ということを考えたいと思います。

長く、看・介護の世界に身を投じると、回復・悪化・看取りなどに立ち会うことがしばしばあり、良くも悪くも、どうしてそうなったかの検証と課題分析が事例検討会(カンファレンス)で行われ、様々な角度や専門的立場から意見が出ます。それ自体も勉強になるのですが、もっとも重要なことは、なぜそのような結果に至ったのかという背景と経過(プロセス)です。これが分からなければ、次に打つ手立てがありません。新人の頃、当時の看護師長から「物事には必ず背景がある」と教育を受けて、小さな問題を放置すると、必ず大きな失敗に繋がるから注意するように、繰り返し確認や報告を厳しく指導されました。

そして今、小さな日常の変化を「何故?・なに?」と疑問が持てるようになったのも、厳しく躰けてくださった看護師長・看護主任のお陰です。

そういった尊い縁が、グラブハートの経営に繋がっていることを考えると、無駄なことなど何一つなく、自分にとって、氣を病むような体験や人物も、時を経て「おかげ様」に変わっているんだなあと40歳を過ぎて思えるようになってきました。

まだまだ未熟で職員や周りの方々に支えてもらってばかりですが、「今があるのは誰のお陰」という氣持ちを忘れてはならないことを痛切に感じます。

様々な方に支えていただき、失敗しながらも歩んでいける私はとても幸せです。



深山の桜

令和元年7月
第7号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の
魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、
だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport

発行者 久保成明

〒818-0004

筑紫野市大字吉木2459-1

従業員の大切を自分自身の大切に置き換える気持ち

クラブハートには4名の社員と4名のパートナーさんが働いてくれています。それぞれ自己の特色を生かした支援を毎日試行錯誤しながら行ってくれています。

私は過去に大きな失敗をしました。それは、20年前に努めていた老人保健施設での出来事です。仕事が丁寧な人、仕事が早い人、経験豊かな人、要領が良い人・悪い人様々で、勤務表を組む際に「今月はお金があるから夜勤多めで」とか「あの人と勤務すると余計な仕事が増えて大変だから一緒にしないでほしい。」とか要望が多く、勤務表が完成して皆さんに配布すると「あの人には特別扱いしている。私の希望は反映してくれない。」など言いたい放題でした。

当時の上司に相談して、冠婚葬祭以外の希望は一切受け付けないということを経験で押さえつけたのですが、これが不満を持つ人の怒りを助長させてしまったのです。

ただでさえ離職率の高い業種で、常時欠員状態だったのですが、わたしの対応のまずさで、さらに3人の正規職員を失うという結果となりました。残ってくれた仲間と励まし合って、私自身も月に10回という異例の深夜勤務のほか、会議、勉強会、セミナーなど生活の大半を施設で寝泊まりしたこともありました。今考えるとゾッとするくらい働いていました。(笑)

品性を豊かに生きるためには20の徳目を磨くことが重要であると教わり、10年ほど前から語調を柔らかくして、柔和な表情を意識するようになりました。

特に徳目の16番目「寛容さ」：他人の過ちや欠点を責め立てるのではなく、それぞれの立場で考えられる、広くあたたかな心を持つという項目はいまだに大きな課題の一つです。

皆の心を一つにまとめるには、経営理念や運営方針、リーダーの考え方や決断力も大切ですが、一人ひとりが大切にしている事柄をリーダーが自分のこととして受け止められるかに尽きると考えます。結論として、当時の私は、人を思いやる気持ちと他人が大切に思っていることを、自分が大切にしていることと同じように感じる気持ちが出来ていなかったのだと感じます。

恩師より「他人と過去は変えられない。変えられるのは自分と未来だけ」という言葉を頂きましたが人を変えよう変えようとしていたあのころとは違い、本当にそのとおりでないと今の私は素直にそう思えません。

過去を悔やんでも仕方ありません。失敗を糧に周囲の人が安心と喜びを感じ取れるような社風を従業員と共有できるようになれば私はとても幸せです。

クラブハート 所長 久保成明



令和元年8月
第8号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の
魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、
だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport
発行者 久保成明
〒818-0004
筑紫野市大字吉木2459-1

仕事は丁寧に親切に効率よく

私が以前働いていた「楽しい職場」という会社があります。
私の会社は社員4名にパート職員7名という小さな会社でしたが、障がいのある方々を雇用して、就労に必要な知識や能力の向上に必要な訓練を親会社のスーパーマーケットをフィールドにさせていただき、効果的に実績を上げていました。

当時、スーパーの仕事以外にも農園や外壁の塗装、配管の清掃、庭の草取りなど幅広く仕事をさせていただいていました。私の中の最優先事項は「迅速さ」つまりスピードでした。次に費用です。(人件費、資材費、移動費等)最後に「丁寧さ・正確さ」という具合でした。

納期を急ぐあまり、クライアントの日程を変更してもらったり、他の作業要員を無理やり外作業にまわしたり、職員を減らして障害のある利用者さんを増員するなど安全配慮の面を欠いた指示をだしたり、当時の私は、言われたことを早くこなすことが満足につながるのだと勘違いしていたようです。

そんな時、尊敬する親会社オーナーよりこんな話を聞きました。
「久保君は「三方よし」で知ってる？ 三方よしとは「売り手よし」、「買い手よし」、「世間よし」の3つの良しのこと
で、売り手と買い手が共に栄え、また社会貢献もできるのが良い商売であるという考え方でね、近江商人の心得として今でも伝わる有名な言葉をなんだよ。久保君の一生懸命さは理解できるし、業績も上がっているけど、大切なことは、どれだけ丁寧に正確な仕事ができるかと、相手の立場や考えをくみ取って仕事ができる親切さじゃないかな。

その上に業績がのって、繰り返してやっていく中でスピードも徐々についてくる。僕はそう思うけどね。」
淡々と語るオーナーの言葉には、「こうしろ」「ああしろ」という立場上の命令指示ではなく、偏った私の行動や考え方に「自分で気付きなさい。」というメッセージを近江商人の言葉を借りて教えてくださったのだと思います。

仕事をすすめるうえで、効率よく仕事をするための仕込みや段取りはとても大切です。しかし急ぎすぎるあまり、いい加減で不誠実な仕事をしてきたなら、お客様は直ぐに気付きます。
いつの間にか謙虚な気持ちにならず、自分の行動が正しいと思いつつ始めるようになっていたのだと反省しました。

それからのわたしは、心の中で毎日唱和しています。
仕事とは第一に「丁寧・正確であること」
第二に「親切であること」
第三に「迅速かつ効率的であること」

今私はサービス管理責任者という役割を頂いて仕事をさせていただいております。様々な障害特性のある方々と接する中で支援者が結果を急ぎ過ぎると当人は苦しいと思います。先ずは丁寧に、親切に接してみても相手により多く心を聞いてくれるような接し方を身につけたい。そしてグラハートで働くすべての職員さんが謙虚で誠実に人の話しを丁寧に聴き、親切に応対して下さることを望んでいます。様々な自戒と反省を繰り返しながらも、職員に支えられ目標へと歩みを進められる私はとても幸せです。

グラハート所長 久保成明



深山の桜

令和元年9月
第9号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の
魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、
だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport

発行者 久保成明

〒818-0004

筑紫野市大字吉木2459-1

正しく思うことで心のクセを整える

本当の素直さとは、「心に癖がなく、まっすぐな状態」を言うそうです。

人の心は自我と過去の行為によって形成され、年々心にクセがつき、心に垢がたまると言われます。知らず知らずのうちに入を傷つけたり、周囲の方に不快さを与えたりするのは、自分のことばかり考えて、心が癖だらけだからだと思います。

さて、「素直な人とはどんな人のことを指しますか?」と質問され、「したいことを自分の好き勝手にできる人」と連想した方は、20年前の私と同じです。

多少遠慮はあるものの、そんな生き方をしていました。

私が学ばせていただいた素心学では、「正しく思うとは、いかに思うか。」が重要であるといっています。

例えば私は「介護福祉士になって、体が不自由な方々のお世話がしたい・お役に立ちたい」ということを、正しく思えたから、介護士になり、職場で働かせてもらえましたし、高齢者から障害者の事業に転換してからも、「障害者の就労支援を真剣にやってみよう」と正しく思えたから今のお仕事に繋がっていると感じています。

すべて自分が思っ、行動に移してきた結果が現在の自分ということになります。

素心学池田塾長は、正しく思わなければ、間違った行動に走り、不幸な人生を招くことになる。

今自分があまり幸福でないと感じている人は、これまでの「思いかた」にどこか問題があるはずだと語っておられます。

孔子は、「七十にして心の欲するところに従いて、矩を越えず」と論語に書き残しています。

君子と言われた孔子でさえも、自分の思いに従った行動で人としての正しい道を踏み外すことがなくなるまでに七十年かかっています。

図らずも、人の上に立つものとして、心に沁みついたクセを少しでも取り除いて、自分の興した決断がブレずに正しい結果に結びつくよう、平日頃の行動から一つひとつ素直に反省をし、正しく思えるように、そして、思ったのなら素直に行動できるようにしていきたいと思えます。

過去に様々な学習の機会を頂いて、たくさんの方々との出会いや刺激があつて、今日に至っていることを深山の桜を書くたびに思い出します。

そのたびに自分自身を素直に振り返ることができるわたしはとても幸せです。

クラブハート 所長 久保成明



令和元年10月
第10号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の魅力に少しずつ気づくようになる。はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、だんだん細い道となる。その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport
発行者 久保成明
〒818-0004
筑紫野市大字吉木2459-1

寛容さについて考える

以前、「人格を形成する」あるいは、「心のクセを正す」ためには、20の徳目を身につける必要があるとお話ししました。

今回は私がどうしても苦手とする「寛容さ」についてお話させていただきます。

「寛容」とは、相手を包み込む、広い心を指します。努力はしていますが、わたしは落第点です。

以前勤務していた高齢者の施設では、慌ただしく看護師も介護士も働いていました。一つ歯車が乱れると入浴や排せつ、食事介助、就寝介助に至るまでタイムスケジュールが狂ってしまいます。ですから、歯車が正常に回り続けるように管理監督する人間が必要なわけですが、それが私の役目でした。施設や病院で看護・介護に従事されていた方ならお分かりいただけるでしょうが、それぞれに患者さん、利用者さんに自分ができる最良なケアを提供したいと思っています。しかし、実際は、歯車の一員であり、歯車から外れることは、他のケア職員への負担増へとつながります。

施設専門職員は、常にそのジレンマと闘いながら折り合いをつけ、いつの日か業務優先のマシーンになつてしまうのです。

利用者さんが声を絞って「看護婦さん」「せんせーい」と呼ぶ声もマシーンには届きません。「ちょっと待つてください。」、「今おしっこ行ったでしょ。」と利用者さんが話し終わる前に答える始末です。

定時に帰る為には、休憩時間もとらずに記録して、委員会や係活動、ケアプランの計画書作りをしなければ休みに出社しなければいけなくなります。

こういった環境で寛容さを持つと言われても、土台無理だなど、劣悪な環境を思い出しては、自己を振り返り、当時の職員と利用者さんに懺悔する毎日です。

素心学では、他人の過ちや欠点を責め立てるのではなく、それぞれの立場で考えることができる、広くあたたかい心の在り方を「寛容」というそうです。

知識を詰め込んで、それを生かした行動ができなければ、真に学んだことにならないことを常々感じては反省しています。

心に沁みついた分厚いクセを一枚いちまいはがす薬は、もしかすると、この「寛容さ」なのかもしれません。様々な方から、人格形成のヒントをいただき、それが自分の成長の糧となっている実感を持つる私は、とても幸せです。

クラブハート 所長 久保成明



深山の桜

令和元年11月
第11号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の
魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、
だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport

発行者 久保成明

〒818-0004

筑紫野市大字吉木2459-1

人の話しは丁寧に聴くという話

職業柄、様々な立場の方とお話をして仕事をさせていただけいております。

そんな中、自分は、決して真似をしないようにしようと思強させられることもしばしばあり、その逆も
あります。

私が考える「丁寧に聴き方」・「丁寧にでない聴き方」がありますので、自己反省を含め、今日は「聴く」とい
うことに焦点を絞ってお話をさせていただきます。

次のような「聴き方」をすると相手はきっと不愉快だろうなあと思うことを3つ挙げたいと思います。

その一「自分が話すときには、鉄砲玉の様に話すのに、人が話を始めた途端によそ見をしたり、携帯電話
話やスケジュール帳を確認したりする。」

その二「何か別のことを考えておられるのか、要件に対する反応が薄く、同じことを二度言わせる」

その三「話しをしている途中に、その話はこういうことでしょうと言わんばかりに話し出す。」ことです。

一方が長々と話をするなどの対話にならないケースは除いて、交渉事や、相手のニーズを引き出す際には
一方通行になつてしまい、当然期待した成果は得られにくいと考えます。

では、「丁寧に聴く」ためには、どうすればよいか？私のバイブル書「素心学要論」にはこのように書いてあ
りました。

・腰骨を立てた正しい姿勢で椅子に座る。(腕や足を組んだり頬杖をついたりしない。)

・お話ししてくださる方のほうに顔を向ける。

・共感できるところは頷く。

・必要なところはメモをとる。

・お話しが終わった後には心を込めてお礼を言う。

このような態度が丁寧に聴き方を生み、更には、相手が不快に思わず、安心感を持つことができて、「き
ちんと聞いてくれた」と思ってもらえる要素でもあると考えます。

もう一步進んだ考え方をすると、「それは違うだろう。」など頭ごなしに否定せず、「この点はこう思うの
だけでも、あなたはどう思いますか？」と意見交換のような対話が意識できると聴き手・話し手双方が
良い雰囲気になるなど感じます。

「人の話しを丁寧に聴く」ただそれだけに尽きるというケースもあるのではないのでしょうか？自己主張が
強いな、人の話しを聴く前に話すことの方が多くないかと感じていらっしゃる方が、この話を思い出していただき、
変わろうとするきっかけにでもなつてくださったなら、私はとても幸せです。

グラブハート 所長 久保成明



深山の桜

令和元年12月
第12号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の
魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、
だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport
発行者 久保成明
〒818-0004
筑紫野市大字吉木2459-1

学行一致をもう一度考える

素心学池田塾長は「学行一致」を次のように説いています。
「学ぶことは行動のきっかけづくり、行動は学んだことの証です。
学んで行動を起こさないのは、真に学んだことにはなりません。
学ぶことは、行動することです。」

以前私は、自分と違う考え方をする人に対して受け入れることを拒み、自分が好きな歩みのみを信じて行動した挙句、知らず知らずのうち、周囲から人が遠ざかるリアルな経験をしました。
その時の私は、人に負けたくないという一心で、研修会やセミナー、看護・介護・リハビリテーションといった関連する職種の知識をとにかく吸収して、実践していたことを思い出します。

それだけを聞くと「なんだ、久保さん立派じゃないの。」と思われるかもしれませんが、私の至らない点は二つあります。一つ目が、やりだすと前後が見えなくなり、その他の事は、ほったらかしにしたり、忘れたりと注意力が欠けてしまいます。二つ目は、知ったことで満足して、自分が偉くなったような錯覚を持つてしまいます。(言い方を変えるとインテリぶった嫌な人になっていました。)

論語の一説にこんな言葉があります。
子曰く、「まな学ぶびて時に之を習う。亦また説はしからずや。」

「とも朋あり、えん遠方より来たる。亦また樂しからずや。」

「ひと人知らずしてうら慍みず、亦また君子ならずや。」 (書き下し文)

孔子はおっしゃった。習ったことを機会があるごとに復習し、身につけていくことは、なんと喜ばしいことでしょうか。友人が遠方からわざわざ私のために尋ねてきてくれることは、なんと嬉しいことでしょうか。他人が自分を認めてくれないからといって不平不満を言うことはありません。なんと徳のある人ではないでしょうか。(現代語訳・口語訳)

このことから導かれる答えは、「謙虚さ」です。自分に欠けていたことはこの謙虚さがない行動だと気づきました。改めて学業一致(言行一致)を考えた時に、学んだことを現場に活かして、自分の中にある「正しさ」が周囲の人とズレていないかを常に検証し、修正していくことが自己を高め、周囲に良い影響をよめることにつながるのだと思えました。時々本を閉じては思い出し、先人の智慧を借りて自己を戒めることができて私はとても幸せです。

グラブハート所長 久保 成明



深山の桜

令和 2年1月
第13号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の
魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、
だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport
発行者 久保成明
〒818-0004
筑紫野市大字吉木2459-1

人格の本質（生きていくうえでなくてはならないものとは）

「人格」をインターネットで調べると「人柄」・「個人として独立しうる資格」と書いてあります。
個人として独立しうる資格とは、人様の役に立ち、人様に心配やご迷惑をかけない行動や発言が自然に
できる人だとわたしは考えます。

しかし、そのようなひとに巡り合うのは、簡単な事ではありません。
では、人格の本質とはなにか？ 素心学では、2つの要素があると言います。

ひとつは、「本質的要素」です。生きていくうえでなくてはならないものを指します。皆さまなら、どのよ
うなものを想像されますか？
そしてもう一つは、「付属的要素」と言い、専門的知識や教養的知識とされています。

お分かりのとおり、本質的要素は、「人として生きていくうえで周囲の方に不快さを与えずに、その人が
そばにいてだけで安心と喜びを感じることが出来る。」すなわち「徳」に他ならないと思います。
ですので、あえてベクトルを描くとすれば…。

「徳」⇕ 人に不快さを与えず、安心と喜びを与える表情・語調・態度 ⇕ 「思いやり」

というふうに変換ができれば、難しい書物を読んだり、なんべんも慣れないことを練習したり
する必要はないことがわかります。

意外と、身近にある、普通な出来事にこそ、人格の本質が現れやすく、意外と自分では、欠け
ていることに気付けないでいるなあとは感じます。

私も今年で44歳になりますが、父や母の様に、安心と喜びを周囲の人々に与えることができ
ていないことに気付いてはいても、行動がおろそかで、付属的要素ばかりに心がとらわれてし
まっていることを反省させられます。

そんな自分自身の心のクセを、今年はずこしでもまっすぐに伸ばせるように努力します。

深山の桜をご拝読いただく皆様が奏する人格で、その本質に触れた方に良い影響のおすそ分け
ができたなら、私はとても幸せです。

グラブハート 所長 久保成明